

J-Startup ロボット介護機器・福祉用具開発標準化事業

平成31年度予算案額 **14.4億円 (12.0億円)**

事業の内容

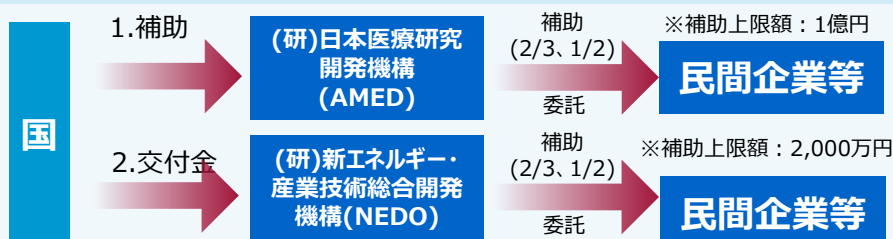
事業目的・概要

- 介護需要の増加や介護者の慢性的な人材不足という社会課題をロボット技術により解決するため、①厚生労働省と連携して策定した重点分野に基づき、高齢者の自立支援等に資するロボット介護機器の開発を実施します。また、②ロボット介護機器について、効果の評価、安全基準の策定・標準化、海外展開に繋げていくための環境整備等を行います。
- また、高齢者や障害者の自立の促進、活動を広げる製品や介護者の負担の軽減等従来の福祉用具の研究開発に加えて新たな社会課題・ニーズへの対応を行うため、福祉用具開発を担う民間企業とユーザー評価を担う機関等が連携した開発・実用化を支援します。

成果目標

- 本事業による助成が終了する平成32年度には、ロボット介護機器の国内市場規模を約500億円へ拡大することを目指します。
- また、本事業による助成終了後、3年経過した時点で、50%以上の製品について市場化されていることを目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

1. ロボット介護機器開発・標準化事業

- 厚生労働省と連携して策定した重点分野に基づき、高齢者の自立支援等に資するロボット介護機器の開発を実施します。

ロボット技術の介護利用における重点分野 (平成24年11月 経産省・厚労省公表、平成26年2月、平成29年10月改定)



- ロボット介護機器の効果に係る評価を実施します。また、新たな機器の安全基準を策定するとともに、安全性に関する国際規格 (ISO13482) とEUの基準適合マーク (CEマーク) との連携等を進めます。

2. 課題解決型福祉用具実用化開発支援事業 ※ J-Startup

- 高齢者及び障害者のQOL向上を目指した機器
【軽量で走破性に優れた電動車椅子の前輪とモーター】
 - 介護者の負担を軽減する機器
【ワンタッチ操作で移乗支援できる車椅子型移乗器】
 - 高齢者の日常動作を支援する機器
【多機能で簡易な下向き動作補助手摺棒装架腰掛】
- ※審査時にJ-Startup企業は加算

